

県中教研

技家(技術)部会だより

第 40 号

発行日 令和7年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 小田 仁洋
題 字 金山 泰仁 先生

「つなぐ、つなげる」を意識して

指導主事 森川 誠

富山県中教研技術・家庭部会の研究主題の中にある「つなげる」は、「学んだことを将来につなげること、過去から将来につなぐこと、体験と思考を連続的につなぐこと、社会と自分をつなぐこと等」を意識しているとされています。

技術の学習において、これらの「つなぐ、つなげる」を実現するためには、学習指導要領に示す(1)生活や社会を支える技術、(1)技術による問題の解決[Dでは(2)(3)が該当]、(3)社会の発展と技術[Dでは(4)が該当]、という学びをつなげる必要があります。(1)では、技術の見方・考え方に気付くことができる、(2)では、技術の見方・考え方を働かせることのできる、実践的、体験的な学習活動を計画することが大切です。また、(3)について、文部科学省初等中等教育局渡邊調査官は、「自分がつくったり、触ったりしたことがあるテクノロジーが社会と結び付くためには、(3)の授業は非常に重要であり、これを行わないと社会とつながらないはずである。」と話されました。

さて、今年度の研究大会では、第1学年の「スライドを使ってプログラムの考え方を身に付けよう」という題材で、(2)「技術による問題の解決」の授業が展開されました。アクティビティ図を用いて、プログラミングの計画・設計をすることで、生徒たちは考えを整理する、新たな発想を生み出す、動作確認をする、デバッグするなど、自己調整しながら学習を進める姿が見られました。また、指導案には、内容A～Cの(1)～(3)[Dは(1)～(4)]が明記された3年間の指導計画も記載されており、体験と思考をつなぐことや、社会とつなぐこと等が意識されていました。

今後も、各地域での実践を積み重ね、その取組のよさをつなげながら、各校での指導計画を見直していくことが大切です。

(東部教育事務所)

アドバイザーの「現場主義」に学ぶ

部長 小田 仁洋

20年以上前、多治見市立中学校の臨任講師時代に、小牧市立小牧中学校で「教師力アップセミナー」が行われていると聞き、参加した。休日にも関わらず、ホール内の約200席は満席で、追加の椅子を準備するほど熱気に包まれていた。

セミナーの冒頭で「校内研修だけではもったいないので、誰でも参加できるような教員研修会をつくりました。」と発起人として挨拶されたのが、当時小牧中の教頭で、今年度県中教研・技術部会のアドバイザー、岐阜聖徳大・玉置教授だった。年間7回ほど全国から有名講師を招聘して行われるセミナーは、現在まで22年間続いている。東海地区の教員に噂が広がり、2年目には参加者が毎回300人を超えるまでになりNPO法人「元気な学校を支援し創る会」を設立するに至った。

私も毎回ではないが参加し、富山県からの交通費や参加費に見合う以上の学びが得られている。かつて異校種間交流で小学校に赴任し、5、6年生の担任時にも、セミナーで学んだ授業力が非常に役に立った。もちろん、技術・家庭科の授業にも活かされている。特に、玉置教授が中心となって地元企業と連携し生み出された「簡単ホームページ作成システム」や「統合型校務支援システム」は、学校現場に必要とする目線で作成されており、教職員の困り感や「こんな機能があったら…」という要望に応えるもので、教職員とエンジニアとの対話によって生み出されている。私の勤務校でも同システムが採用されており、誰もが簡単に毎日ストレスなく使え、今では学校現場の日常になくはないものである。玉置教授は一貫して「現場主義」である。多くのアイデアや実践は全て、現場の授業や職員室での校務のちょっとした気付きから生み出されている。その後も「愛される学校づくり研究会」を立ち上げ、教育フォーラム等を次々と企画し、サイトのコラムや書籍も多く発行されており、おすすめである。

今年度の東部地区大会、大沢野中・田中教諭の授業では、主体的・対話的な学びのための手立てが多く仕掛けられており、生徒が深く学ぶための工夫があった。本県の技術部会が行っている「主体的・対話的で深い学び」のための授業研究や実践は、部員の皆さまの日々の実践の積み重ねた「現場主義」が貫かれていれば心配はない。

(富・堀川中)

第68回研究大会より

東部地区大会を終えて

杉村 利之

富山市立大沢野中学校 田中幹人教諭の研究授業が行われた。アクティビティ図を用いて1年次から思考の流れを言語化・図式化する活動で論理的な思考力を身に付けることで、生活の様々な場面で自己調整しながら問題を解決していきける「いきてはたらく力」を育成することを目指して、「スライドを使ってプログラムの考え方を身に付けよう」を題材に授業提案が行われた。

本時の学習では、Googleスライドのリンク機能を活用することで、順次、反復、分岐といったプログラミングの考え方を学習するという授業展開であった。計画を立て、考えを整理し、新たな発想を生み出すためにアクティビティ図を活用し、双方向性のあるコンテンツとなるよう「ユーザーの視点」を意識しながらデバッグをする授業内容であった。



グループワークの中で、課題解決のために知りたいことをインターネットで調べたり、班で話し合ったりしている生徒の様子がみられた。また、動作確認やデバッグ等を通して、試行錯誤しながら課題を解決しようとする主体的な姿が印象的であった。



部会協議会①では、提案授業を基に質疑応答や各学校の実践等の紹介があり、活発な意見交換がなされた。東部教育事務所の森川誠指導主事からは、提案授業で学んだことや協議会で話し合われたことを基に、各学校で授業改善・授業研究に生かしてほしいと指導助言をいただいた。

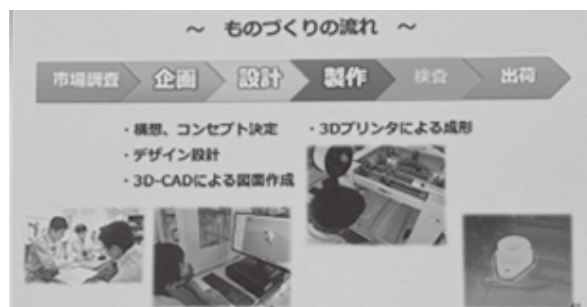
(富・北部中)

西部地区大会を終えて

上田 努

南砺市立福野中学校において、富山県立砺波工業高等学校から島勇佑先生をお招きして、学習の連続性を意識した指導計画の充実～中・高等学校の系統性と題して講演をいただいた。

今年度の7～8月にかけて、福野中学校と砺波工業高校の間で、中・高等学校授業として、以下の3回の実践が行われた。(第2回は、夏季休業中)
第1回 7月 3日(水) 於：福野中学校
講義 ものづくりの流れを学ぼう
実技 文房具スタンドをデザインしよう



第2回 7月29日(月) 於：砺波工業高校

講義 3D-CADの基本操作を学ぼう

実技 3D-CADを使って3D図面を作成しよう



第3回 8月30日(金)

実技 プレゼンテーション資料を作って発表しよう



研修主題「『いきてはたらく力』につながる技術・家庭科の教育の推進ー生活や社会にいかすための問題解決的な学習の充実ー」に対して、ものづくりの流れが大切であり、ただ、ものを作るだけではなく、市場調査から始まり、「企画⇒設計⇒製作⇒検査⇒出荷⇒評価⇒発表」という流れを中学生にも理解してほしいと強調された。

その後、今回の実践で使用された3Dプリンタについて、必要なソフトウェアの説明と使用上の注意事項を聞き、実際に動作確認をした。

(小・石動中)